

予想される大雨等に備えて

平成23年8月10日
北海道農政部

台風9号から変わった温帯低気圧が10日から11日にかけて、北海道の北を通過する見込みです。この低気圧に向けて大量の暖かく湿った空気が吹き込むため、北海道付近の大気の状態が非常に不安定となり、局地的に雷等を伴うまとまった雨となる見込みです。

このため、農作物への影響が懸念されますので、今後の気象台の気象情報等に十分注意し、次の事項の徹底に努めてください。

第1 大雨対策

- 1 水田等では、用排水路の草刈り及び水路内のゴミ上げを行い、水の流れを確保する。
- 2 畑地等の低地や排水不良地などで、大雨による滞水が心配される場合は、あらかじめスコップ等で明渠や排水溝へ排水できるよう溝を掘っておく。
- 3 ビニールハウス・農舎・牛舎・サイロ・飼料庫等に水が入り込む恐れがある場合は、施設周辺に排水溝を掘り、土のうを積むなどの対策を行って施設への浸水を防ぐ。また、ビニールハウス周辺の排水溝が浅くなっている場合は、ハウスのすき床面より低く掘り下げるなどの排水対策を講じる。ビニールハウスのボイラーや移動できる機械類は可能な限り高所に移し、浸水を避ける。
- 4 堆肥場や尿溜りに雨水が流れ込み、あふれ出す恐れがある場合は、土盛りなど行い河川への流出を防ぐ。
- 5 牧草地等に仮置きしているロールベール乾草やラップサイレージは、滞水の恐れのない場所へ移動する。
- 6 氾濫する恐れのある河川周辺に家畜を放牧している場合は、目の届く放牧地や避難施設などできるだけ安全な所に移動する。

第2 停電・断水対策

- 1 停電・断水の可能性があるため、特に酪農家では事前に発電機の手配、自家発電機の試運転、発電能力と使用する施設・機械の必要電力の確認、給水タンクの手配などの対策を行う。懐中電灯や牛舎・施設などの小道具の置き場所を家族で確認し、夜間の停電下での突発的な人身事故に注意する。また、牛舎内の清掃・整頓を徹底し、保管中の生石灰が雨で発熱し、火災にならないよう注意する。
- 2 停電した場合
 - (1) 停電で搾乳が不可能な場合は、牛舎への出入りは必要最小限にし、牛に搾乳刺激を与えない。また、給水制限すると同時に濃厚飼料の給与は控える。
 - (2) 通電後は、ミルカーなど電気を動力源とする機械が正常に動作することを確認した後に、直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物（通称ブツ）の有無を確認し、乳房炎に罹患している場合は治療する。
 - (3) 牛の体調を確認して、異常牛はすみやかに獣医師の診察を受ける。

第3 その他

作物が風雨にもまれ損傷した場合に、細菌性の病気が発生する恐れがあるので、防除ができるように事前に薬剤を準備しておく。

なお、薬剤を使用する際には農薬使用基準を遵守するとともに、食品衛生法に基づく残留農薬の「ポジティブリスト制度」に対応した適時適切な散布を行う。

お問い合わせ先：食の安全推進局技術普及課（電話011-231-4111 内線27-823）

